

Heart より社会を眺めて

理事 藤田 慶喜

僕の周りには、いくつかのグループが要る。これまでは会社（仕事）、趣味、学校などで自然に区別出来ていた。しかし年齢を経るに従い、これまで年齢的、職位的な上下という区別は次第に薄まってきて、むしろ出会う頻度の多寡、気が合う度合い、疾病による連帯結合感など若い頃にはなかった組合せが生まれてきている。特に奥さん同士がよく知っている場合はその関係が比較的スムーズに長く続く感じがする。これは男が歳を取ると次第に奥さんへの依存性が増すことに原因があるのであろう。

先日気になることを医者から聞いた。男が人生の末期を迎えると、しきりに奥さんの名前を呼ぶが、女性の場合は絶対に亭主の名は出て来ないとのことだ。出てくるのはその女性の親や子供の名前で、亭主ではない。認知症患者でも同じ傾向があるという話である。いったい亭主は身を粉にして奥さん、家族達の為に一生懸命働いたのに、これでは報われないと Heart の皆様の嘆きが聞こえてくる。この事実は年齢が高くなるに従って、男性女性の社会における力関係の変化を示しているのではあるまいか。つまり会社や仕事では存在していた両者の間の差が縮小し、終に逆転するためではなかろうかと推論している。

僕にとっては Heart は功名遂げた（高）年齢集団である。メンバーの現役時代の活躍は敗戦国家から一大経済大国に押し上げた、我国にとって功績者たちである。技術的、経営経験は今の途上国に役に立つ部分が多く、かつ実践的である。もうひとつの集団である日本マクロエンジニアリング

学会は平均年齢が Heart より約 10-15 年若く、かなりの論者が揃っている。海外経験も豊かで、語学も達者でありその経験や知見が広がりを持っている。三つ目の集団は国際環境非政府組織の FoEJ (Friend of the Earth Japan) である。若い情熱を地球環境改善の為に傾けている。海外に勇んで出掛け、多くの国の人々と協力してプロジェクトを推進している。語学、パソコンに優れているほか、その行動力とエネルギーは素晴らしい。四つ目は学生とその卒業生達である。社会経験が少ないだけに、見るもの聞くものすべてを新鮮な目で観察をしている。将来を担う世代でその観察眼は鋭い。

人間以外の動物は、生殖能力が無くなった時期以降はあまり長く生きない。特に類人猿、メスは生殖期間が終わると数年で死ぬことが分かっている。ネアンデルタール人の化石からも裏づけられるとのことである。現世人類はそうではなくて、かなり長く生きていることが特徴となっている。そうであれば、折角与えられた時間であるので、その高年齢層の役割があるのでないか、と思い始めている。高年齢層がそれなりの役割を果たし、その知見経験を次世代に伝える社会や企業は、安定度が大きいと考えるからである。

最近我国の科学技術の将来について悲観的見方をしばしば拝聴する。米国式エリート育成システムである「サイエンスタレントサーチ」などの試み、先進国中で注目されるフィンランドの経済成長を支える IT など先端分野での成長施策など我国にも参考となる事例が多い。遅ればせながら我国も情報基盤強化税制が創設され情報システム信頼性確保へガイドライン作成など始まった。しかし

ここでも人材育成が key になっている。

経済学者森永卓三氏は昭和30年代に学ぶことが必要と述べている。年収300万円で十分生活出来るとしている。厚生労働省の年金モデルケースでは280万円となっている。生活を都市か地方かで老後の負担も変わる。その選択の自由は確保しておきたい。又少子高齢時代による人口減少問題が議論を呼んでいる。最近の研究によれば、2050年における労働力人口減少は2005年より2100万人少ない4600万人となる見込みで年率換算では0.8%減に過ぎないので、何とか生産性向上で逃げ切れないかと考え始めている。これらの議論への解を与えることが出来るのは、まさに30年代の経験があり、生産性向上に寄与してきたこのHeartのメンバーではないかと思いついて始めている。つまり人口減問題へ貢献出来る頭脳集団ではないかと。

近く国際NPO法人「地球資源循環研究所RIMACS (Research Institute for Material Cycle Studies)」を立ち上げる。全く手弁当での発足であるので、企画書を作成し、fund mobilizationをしながら活動することとなる。

技術、産業以外に文化、歴史、教育問題など人的資源循環の観点から取り扱いできればと思っている。この為には、上記集団同士の補完、連携、連帯などが為されこれまでの国際的人脈との連携が出来ればと念じている。そこで上記我が国が直面している課題に対して発言をし、見解を提出し、同じ問題に遭遇するであろう他国への参考となればと夢を描いている昨今である。

(日本マクロエンジニアリング学会会長、国際環境NGO FoEJ 代表理事、前桜美林大学副学長、元国連工業開発機関工業技術推進部長)

—コラム—

所 感

会員 伊藤 新平

今の時代、私達に物質的な豊かさと便利な生活をもたらしてくれましたが、一方では、地球規模の環境問題、人と人とのつながり、食への不安など、マイナスの部分も考える時期だと思えます。

今の生活スタイルを見直していくことが必要だと感じている時、昨年山内先生の紹介でハートの会に入会させていただきました。

ハートの会の研修に参加させていただき、様々な体験、勉強をさせていただいております。

今回の萬世リサイクルシステムズ(株)の工場見学では、民間企業がそれぞれの分野プロ集団の共同経営だと聞き、今後の環境問題にとって素晴らしいことだと思えました。

利便性、効率性だけを追求するのではなく、もう一度ゆっくりと身近な自然、日常生活に目を向け、人間も自然の中の一員であることを認識し、美しい地球を作り直すきっかけが必要だと思えます。こういった視点を大事にしながら「次世代」に何を残すか、つないでいくか考えていきたいものです。

ノーベル平和賞を受賞した、ケニアのワンガリ・マータイさんの「もったいない」の言葉、日本には素晴らしい文化があると仰っています。

出来ることから一つ一つ行動に移していかなければと再認識しました。

次回の研修会を楽しみにしております。

(愛媛県西条市議会議員)